

京都府内で流行性出血病ウイルスを確認!!

流行性出血病は、イバラキ病と近縁のウイルス性疾病で嚥下障害や流死産との関連が疑われており、九州地方で広く確認されています。

本年11月、府内の流産母牛及び同居牛から流行性出血病ウイルス6型が確認されました。

【確認されたウイルス】流行性出血病ウイルス（EHDV）血清型・6型

【症状】嚥下障害、流死産等との関連が強く疑われている

【感染経路】又カカ等の媒介による機械的伝播

【対策】

- ・効果のある治療法はなし（対症療法のみ）
- ・又カカ等の防除
 - ・牛舎周辺の草刈りや水たまりをなくし、清潔で乾燥した牛舎環境に保つ
 - ・送風ファン等で気流を作る
 - ・虫よけ効果のあるプアオン剤やイヤータグ使用する
- ・イバラキ病（2型）のワクチンはあるが2型以外への効果は不明

※EHDVには複数の血清型があり、届出伝染病のイバラキ病は2型に分類。
今回確認されたEHDV6型もイバラキ病類似症状を引き起こすことが報告。
令和5年には九州各県において同時期にEHDVの流行が確認。



イバラキ病で認められる嚥下障害



イバラキ病で認められる舌麻痺

京都府山城家畜保健衛生所 城陽市寺田北山田31-47

☎：0774-52-2040（休日・夜間は転送） FAX：0774-52-2030